

## 第2回 広島県循環器緩和ケア研究会を開催しました

# 第二回 広島県 循環器緩和ケア研究会 心不全ケアの実践に必要な知識を学ぼう

【日時】令和二年二月二十九日(土)

十五時～十六時五十分

【場所】広島大学 広仁会館二階

大会議室



【写真1】



【写真2】

令和二年二月二十九日(土) 広島大学 広仁会館二階大会議室にて、第二回広島県循環器緩和ケア研究会「心不全ケアの実践に必要な知識を学ぼう」を開催致しました。当研究会は、心臓いきいきセンターや、がん診療連携拠点病院で心不全患者の緩和ケアに携わる方を対象に開催しており、新型コロナウイルス肺炎対策により、国内の各研究会等が自粛されつつある中、医療従事者 計五十八名(院内八名、院外五十名)と非常に多くの方々にご参加いただきました。開会の挨拶は、広島大学病院 がん治療センター 緩和ケア部門長 岡本 泰昌(写真1)が、閉会の挨拶は、広島大学病院 心不全センター長 木原 康樹(写真2)が行いました。

【基調講演】 座長: 広島大学病院 心不全センター長 木原 康樹

緩和ケア開始のタイミングは、StageDではない

久留米大学医学部内科学講座 心臓・血管内科部門 柴田 龍宏 先生より、「心不全緩和ケア普及のためにどのような戦略を描くか？」の演題で、講演がありました。

柴田先生は、緩和ケア介入のタイミングは、StageDではなく、患者のニーズに合わせて開始する必要があること、ACPIについても早期から始め、繰り返し話し合い、本人・家族・医療者が納得できる合意形成・意思決定を行うことが重要であると述べられました。(写真3)



【写真3】

【一般公演】 座長: 広島大学病院 がん治療センター 緩和ケア部門 副部門長 倉田 明子  
循環器内科 助教 北川 知郎

臨床倫理を用いたカンファレンスの開催

広島市立安佐市民病院 慢性心不全看護認定看護師 小林 志津江 先生より、「安佐市民病院における心不全緩和ケアの取り組みについて」の演題で、講演がありました。

小林先生は、院内の多職種で構成される心不全チームメンバーとともに、症状緩和が必要な患者を対象に、必要に応じてカンファレンスを行っており、カンファレンス時には、臨床倫理4分割表を用いて、患者の全体像を把握していること、また、緩和ケアの提供に関して重要なことは、本人・家族ともに最善な方法を考えることであると述べられました。

早期からの緩和ケア介入は、QOL維持に有用

中谷外科医院 中谷 玉樹 先生より、「末期心不全の緩和ケア～在宅医の立場から～」という演題で、講演がありました。

中谷先生は、ACPIは、急性期病院入院中～退院後のかかりつけ医での診察時まで、どの場所・段階にいても行えるものであり、繰り返し行う必要があること、かかりつけ医と入院先など他の施設の主治医とも連携し、共有していく必要があることを述べられ、緩和ケア介入のタイミングについては、早期から介入することでQOLが維持できる傾向があることを伝えられました。

## 事務局より一言

各講師の講演後、参加者より、柴田先生へは、「心不全患者のACPIに、かかりつけ医がどのように関われば良いのか?」、中谷先生へは、「ドブタミンを在宅で導入することは可能か」、小林先生へは、「カンファレンス開催を提案するのは、どの職種が多いか」等、熱心に質問される様子が見受けられました。また、参加者のアンケートより、「臨床倫理4分割法を使用してカンファレンスを行うことを知り、参考になりました」、「全ての先生の講義が勉強になりました」等、たくさんのご意見をいただきました。

広島大学病院 心不全センター事務局では、今後も引き続き、医療従事者向けの研修会等を開催予定です。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

【広島大学病院 心不全センター 事務局】